

ボート選手の持つ人間力の特徴 — 情動知能尺度 (EQS) からみた一考察 —

松本 祐輝 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 南島 永衣子

キーワード：人間力 ボート競技 情動知能尺度 (以下、EQS と略す)

1. 緒言

我が国において、人間力向上の必要性が叫ばれて久しい (人間力戦力研究会、2004)。しかしながら実際には、「人間力」そのものの定義が曖昧である上に、「人間力」を一朝一夕に向上させる手段が確立されているとは言い難い。そのような状況下、「人間力」を向上させるための1つの方法として、スポーツ活動を通じた働きかけが有用であるとする考え方は多くの人が認めるところである。

そこで本研究では、スポーツの中で最も消費カロリーが高く、激しい競技でありながら、自然と触れ合い、どんな状況でも対応していかなくてはならないボート競技を対象にしてEQSを実施し、ボート選手の情動的知能に関する特徴を明らかにすることを第1の目的とした。さらに得られたデータより、ボート競技が「人間力」向上に及ぼす影響について考察を試みることを本研究の目的とした。

2. 方法

対象者は2010年10月17日に福井県M町で行われた町民レガッタ参加者の中から、20代34名、30代19名、40代7名 (計60名) を対象に調査を行った。対象者に調査用紙を配り各質問に対して最も当てはまる回答に○印を付記させた。採点は、下位因子ごとに項目の合計点を算出し、さらに算出した下位因子得点に対応する因子ごとにまとめて、対応因子得点を算出した。最後に、対応因子得点を「自己対応」、「対人対応」、「状況対応」の3つの領域ごとに合計し、各領域得点を算出した。採点・集計後、

下位因子得点、対応因子得点、領域得点のそれぞれについてまとめ、比較検討した。

統計処理については、SPSS 13.0 for windowsを用い、対応のないt検定を行った。

3. 結果と考察

本研究の対象となったボート選手の中では女性より、男性の方がEQS項目全般において高い値を示した。特に下位因子では、「自己決定」「自制心」「決断」「気配り」「集団指導」「危機管理」「機転生」「適応性」において男性の方が高い値を示した。また、対応因子では、「自己洞察」「自己コントロール」「状況洞察」「リーダーシップ」「状況コントロール」において男性の方が高い値を示した。領域では、「自己対応」「状況対応」において男性の方が高い値を示した。

以上の結果より、女性より男性の方が、自己の心の動きについて知り、行動を支え、効果的な行動をとる能力があることが示唆された。また、変化する状況を次々と乗り切っていく能力があることを示す結果となった。

4. 今後の課題

本研究では年齢層に大きな幅があり、又、男女の比率や年代別の比率においても大きな差があったため、適切な調整をはかる必要がある。

引用・参考文献

内山喜久雄、島井哲志、宇津木成介、大竹恵子 (2001) EQS マニュアル. 実務教育出版: 東京.